

「0・1・2 歳児の保育で大切なこと」について考える

子どもが乳幼児期に質の高い保育を受けることは、その後の発達に良い影響を与えることが、海外のさまざまな研究で明らかになっています（OECD,2001, 2006, 2010 など）。特に、幼いころに大人との温かいやりとりや良い経験をすることが、脳の発達にとって大切な土台となることが指摘されています（CENTER ON DEVELOPING CHILD ATHARVARD UNIVERSITY, 2016）。



一方で、質の高い保育とは、どのようなものなのか、「保育の質」とは何かについては、多様な考え方があり、明確な基準があるわけでも、常に一定の状態というものでもありません。また、保育という営みはとても複雑で、豊かなものであり、一つとして同じ園はなく、同じ園でも時期や状況などにより変化・変容していくものでもあるでしょう。

私たちは、日本の低年齢児保育において大切にされていること・大切にしたいこと（＝保育の質の要素だと思われること）とはどのようなことなのかを考えてみたいと思い、0・1・2 歳児の保育に関わる保育者や施設長、研究者の皆様に、インタビューや質問紙調査を行わせていただきました。

保育者・施設長・研究者に共通の「大切にしたいこと」もあれば、それぞれの専門性の観点からの「大切にしたいこと」もありました。

ぜひ、ご覧いただき、各園で、そして皆様が大切にしたいことが何かを考えていただけましたら幸いです。



低年齢児保育の質研究班

こども家庭科学研究費補助金(23D1301)

箕輪 潤子 （武蔵野大学）※研究代表者
峰 友紗 （武蔵野大学）
堀 科 （東京家政大学）
淀川 裕美 （千葉大学）
菅井 洋子 （川村学園女子大学）
猪熊 弘子 （駒沢女子短期大学）
今福 理博 （武蔵野大学）

2025 年 3 月発行【無断転載を禁じます】



0・1・2 歳児の保育で大切なこと

～ 保育者・施設長・研究者の声から ～



低年齢児保育の質研究班

こども家庭科学研究費補助金(23D1301)



保育者が

0・1・2 歳児の保育をする上で
大切だと思っていること

0、1、2 歳児クラスの担任保育士・保育教諭 2727 名へのアンケートの回答より

1 子どもの気持ちや思いを尊重した関わり、発達に応じた保育

- 子どもが安心して過ごせるよう、表情や行動から気持ちをくみ取り、寄り添うこと。
- 自己肯定感を育て、チャレンジする意欲を引き出す関わり。

2 安心して過ごし活動できる環境や生活リズム

- 子どもが落ち着いて過ごせるよう、ゆったりとした雰囲気大切に、発達に応じた遊びや生活リズムを整える。
- 月齢や発達差を考慮しながら、無理のない環境をつくる。

3 担任、保護者、職員、看護師の連携や情報共有

- 保護者との信頼関係を築き、子どもの成長や健康状態を共有する。送迎時の会話や連絡帳を活用し、家庭と連携することで、一貫した保育を実践する。
- 看護師や栄養士、調理職員とも協力し、健康管理や食事の工夫を行う。

4 子どもの健康管理

- 低年齢児は体調の変化が激しいため、日々の健康観察を徹底し、小さな異変にも素早く対応する。
- 感染症予防や衛生管理を意識し、安全な保育環境を維持する。

5 丁寧な関わりや保育

- 一人一人の発達や思いに配慮し、丁寧にかかわる。

6 子どもとのスキンシップ

- 言葉では伝えられない子どもの気持ちを、表情や仕草から読み取り、スキンシップによって安心感をもてるようにする。

7 愛着関係や信頼関係を築き、子どもが安心できるようにする

- 子どもが安心して園生活を送ることができるよう、特定の保育者と信頼関係や愛着関係を築く。



言葉にならない思いを汲み取り、保育者が言葉にして受け止めることで、子どもが安心して自分の思いを表現できるようにしている。

園全体でクラスを支えている。大人の連携の良さ、関係の良さが、子どもたちの安心できる環境となっている。



低年齢児保育を担当する保育士・保育教諭の保育観 1
～低年齢児の保育で大切にしていることの記述分析から～
(筆頭発表者：菅井洋子 日本発達心理学会第 36 回大会)



施設長が

0・1・2 歳児の保育において
大切だと思っていること

0、1、2 歳児保育を実施している園の施設長 8 名へのインタビューの回答より

1 子どもの人権を尊重し、愛着形成を大切にする

- 子どもが安心して過ごせるよう、安全な環境を整え、保育者が子どもの生理的リズムに応じて適切に関わり、信頼関係を築くこと。特に、個々のニーズに応じた対応が大切。

2 発達や興味に応じた環境の提供と、基本的な生活習慣の形成

- 発達段階に合わせた遊びや経験の機会を提供することで、子どもの成長を促す（例えば、運動機能や感覚を刺激する遊びを取り入れる、自然と触れ合う機会を増やすなど）。
- 食事・排泄・睡眠などの生活習慣を身につける上で、子ども自身が主体的に行動できるような環境を整える。

3 子ども一人ひとりの個性を尊重し、それに応じた支援を行う

- 子どもの発達には個人差があるため、保育者は一人ひとりの成長を理解し、適切なサポートを行う。
- そのために、発達や健康・衛生管理の知識を持ち、適切に対応する（特に、小さな変化を見逃さずに子どもの状態を観察し、必要な支援を行う）。

4 保育者同士の協力とチーム保育の重要性

- 子どもの発達を適切に支援するために、保育者同士が意見を共有し、互いに学び合うことが大切（特に、経験の浅い保育者が先輩保育者から学ぶ機会を増やすことや、保育の方針について意見交換を行い、共通理解を深めること）。
- 保育者間の連携が強化されることで、より安定した保育環境が提供できる。

5 保護者との連携の強化

- 保護者と積極的に情報を共有し、子どもの発達や生活習慣について話し合うことで、より良い保育につなげられる。
- 保護者同士がつながる機会を提供することも、育児の孤立を防ぐために重要。
- 保護者との信頼関係を築き、共に子どもの成長を見守る姿勢が求められる。



安心して自分自身でいられる力を獲得するプロセスを歩むこと、主体である経験を確実に積み重ねることが大切

発達を意識して、今、こういう状態だから、こういうふうにしていったらいいねっていうのを意識して保育する



What do Japanese daycare directors think about
the quality of care for infant and toddler?
(筆頭発表者：箕輪潤子 EECERA 第 33 回大会)



乳児保育の研究者が

0・1・2 歳児の保育において
大切だと思っていること

乳児保育の研究者 4 名へのインタビューの回答より

1 愛着（アタッチメント）の形成・安心と安全

- 特定の保育者との温かく安定した関係が子どもの安心感を支え、発達を促す。
- 乳児期の子どもは特定の大人との関係の中で信頼を築き、探索活動を広げていくため、保育者が受容的・応答的な関わりをすることが重要。
- 子どもが自由に探索し、遊びを通じて学べるような、安心・安全な環境づくり。

2 子どもの個性や発達の個人差を尊重する

- 0 歳児では感触を確かめる遊びや手指を使う経験、1 歳児では自己主張や基本的な意思表示、2 歳児では友だちとの関わりや社会性の芽生えを支える。
- 特に、遊びの充実が保育の質を左右する要素で、子どもが主体的に活動できる環境の整備が保育者の役割。
- 子どもの遊びの中には、発達を促す多くの要素が含まれており、保育者はその意味を理解しながら適切な関わりをする必要がある。

3 保育者の専門性

- 子どもの発達や欲求を的確に読み取り、適切に応答する力が不可欠。
- 科学的根拠に基づいた保育実践の重要性や、食事・排泄などの生活習慣の支援方法の多様性、保育環境の構成の工夫など、幅広い知識と経験が求められる。
- 子どもが泣いている理由を的確に把握し、適切に応じるなど保育者の観察力が重要。

4 保育者間の連携・保護者との連携

- 1 つのクラスを複数の保育者が担当するため、役割分担を明確にし、チームで協力しながら保育を進めること。
- 保護者と子どもの発達についての理解を共有しながら、信頼関係を築いていくこと。保育者が子どもの育ちについての的確に伝えることで、保護者と共に成長を支えることができる。



あやすのではなく、泣いているわけを知る、そして適切に応答するということが乳児に対する適切な専門性

子ども一人の姿だけでなく、子ども同士の関係性、子どもと大人の関係性、環境との関係性などを見る



乳児保育における質とは何か
ー保育研究者へのインタビュー調査からー
(筆頭発表者：堀 科 日本保育学会 第 77 回大会)